

平和であること

網走市立第一中学校 一年
谷地 心音（やち ここね）



私は、今回この青少年平和都市友好交流事業に参加して、たくさんのことを学び、たくさんの思い出を作ることができました。

一日目は、ガリガリーおおしろでサターアンダギーを作りました。形を作るのが難しかったです。難しすぎて形が丸ではなく、面白い形ができました。形が違ってても味は変わらず、美味しかったです。

二日目は、平和祈念資料館・平和の礎で平和学習をしました。久保田暁さんはまだ生まれて間もないときに沖縄戦を体験しました。久保田さんは平和について力強く語っていました。その中で私が心に残っている言葉が二つあります。一つ目は「沖縄戦はありったけの地獄の戦争」という言葉です。その言葉を聞いたとき、私はなぜ地獄と言うのだろうか？と思いました。でも、久保田さんの講話を聞いていると、その理由が分かりました。「地獄」と呼ぶのは、民間人を巻き込んだ激しい地上戦により二十万人を超える犠牲者が出たこと、住民が壕に避難していたところを攻撃されたり、火災放射器で焼かれたりするなど、悲惨な状況が繰り返されたからです。

二つ目は「生きたくても生きられなかった」という言葉です。私はその言葉を聞いたとき、心が苦しくなりました。私は命があり、生きられているだけでもありがたいと思いました。平和であるということはとても大事で大切だと思いました。

次にひめゆりの塔に行きました。ひめゆりの塔では戦争当時の内容のアニメが流れていました。私はそのアニメを見ていると涙が溢れ出してきました。心が苦しくなりました。私と同じ年くらいの人もいたので、アニメを見ていると自分がもしこの時代に生まれ、沖縄にいたら一緒に行っていたのかなと思いました。私は平和学習を通して平和でいることは大切ということと、戦死した人の分も精一杯生きようと思いました。

三日目は、朝から美々ビーチに行きサバニ体験をしました。漕ぐときに腕の力を使うので腕が痛くなりました。バナナボートにも乗りました。水しぶきがすごく、目に塩が入って痛くなりました。でも、貴重な体験ができました。

次に糸満市の市長に質問をしに、市役所に行きました。質問で沖縄戦について、「市長が思うことは何ですか」と質問をしました。市長は、「人間が人間でなくなり、何も残らないし感情がなくなってしまう。癒えない苦しみがいつまでも続く。」と言っていました。戦争はあってはならないことだと心の中で強く思いました。

次に琉球ガラス村に行きました。ガラス村では、コップを作りました。難しかったけど楽しかったです。

今回の青少年平和都市友好交流事業に参加して、一番大切だと思ったことは、今、自分が平和でいることのありがたさです。自分が平和でいられるのは、家族や友人、周りで見守ってくれている人がいるからだと思います。平和でいることは、当たり前ではないので、毎日、感謝の気持ちを持ちながら、一日一日を大切に生きていこうと思います。

青少年平和都市友好交流事業に参加させていただき、本当にありがとうございました。